

令和5年度 山陽小野田市中学生海外派遣事業 帰国報告書



令和5年8月10日(木)～8月21日(月)

山陽小野田市

目次

中学生海外派遣事業概要	2
1 目的	
2 派遣先	
3 派遣期間	
4 派遣生徒及び引率者	
5 スケジュール	
活動日誌	4
ホームステイ報告及びホストファミリーの紹介	7
・派遣生徒	
・引率者	

◆中学生海外派遣事業概要

1 目的

山陽小野田市と姉妹都市モートンベイ市との交流を図り、もって両市の友好親善と相互理解を深めるとともに、広い視野と国際感覚を持った次代を担う人材を育成することを目的とする。

2 派遣先 オーストラリア クイーンズランド州 モートンベイ市



3 派遣期間

令和5年8月10日(木)～8月21日(月) 12日間

4 派遣生徒及び引率者(敬称略)

あおき 青木	あゆみ 歩未	竜王中学校	3年	にしおか 西岡	ひめ 妃	竜王中学校	2年
よしむら 吉村	あおい 蒼生	小野田中学校	3年	せぐち 瀬口	なな 奈々	高千帆中学校	3年
みねしげ 峯重	とうや 斗哉	高千帆中学校	3年	ふじた 藤田	るな 琉愛	厚狭中学校	2年
しのはら 篠原	のぞみ 希美	厚陽中学校	2年	まえだ 前田	あやか 彩花	埴生中学校	3年
なわた 縄田	あゆみ 亜弓	高千帆小学校教諭		たなべ 田邊	みどり 碧	山陽小野田市職員	



5 スケジュール

【出発前】

第1回オリエンテーション	6月21日(水)18:30～	市役所3階大会議室
第2回オリエンテーション	7月26日(水)9:00～19:00	本山地域交流センター
壮行会	8月2日(水)16:00～	市役所3階大会議室
第3回オリエンテーション	8月2日(水)壮行会終了後	市役所3階大会議室

【オーストラリア派遣期間】

8月10日(木)	厚狭駅～福岡空港(出発)～台北桃園国際空港(乗継)～
8月11日(金)	ブリスベン空港(到着)～モートンベイ市へ レッドクリフハイスクールにて歓迎式、終了後校内で過ごす
8月12日(土)	ホストファミリーと過ごす
8月13日(日)	ホストファミリーと過ごす
8月14日(月)	ホストファミリーと過ごす(祝日:Brisbane show day)
8月15日(火)	ローンパインコアラサンチュアリーへ遠足
8月16日(水)	ハンピーボング小学校訪問(※1)
8月17日(木)	レッドクリフ図書館、美術館、博物館へ遠足
8月18日(金)	レッドクリフハイスクールで授業、さよならパーティー モートンベイ市・山陽小野田市オンライン市長会談(※2)
8月19日(土)	ホストファミリーと過ごす
8月20日(日)	ブリスベン空港(出発)～台北桃園国際空港(乗継)～
8月21日(月)	福岡空港(到着)～厚狭駅

※1 ハンピーボング小学校は赤崎小学校の姉妹校

※2 引率者のみ参加

【帰国後】

帰国報告会	9月29日(金)17:00～	市役所3階大会議室
-------	----------------	-----------

活動日誌

日付	報告者	活動内容
8/10 (木)	前田 彩花	<p>今日はずっと飛行機でした。17時に厚狭駅を出発してからずっと移動でした。機内食や映画もありとても楽しく過ごすことができました。</p> <p>明日やっと Phoenix に会える！DMをしたり、メールでのやりとりしかなかったのがとても楽しみです。家族と会えないのはさみしいですが、一生けんめいこれをいい経験にしたいと思います。</p>
8/11 (金)	篠原 希美	<p>今日のお昼頃にオーストラリアに到着し、そのままレッドクリフハイスクールに向かいました。歓迎会が執り行われました。その時、「Vegemite」を初めて食べました。Vegemite は、オーストラリアでは、有名な調味料で、パンなどに塗って食べるそうです。独特な味がして、少し塩辛かったです。家では、犬と一緒に海へ出かけたり、カードゲームをしたりしました。お土産を渡すと、とても喜んでくれたので、嬉しかったです。</p> <p>明日は、サッカーとアイススケートをするらしいので、とても楽しみです。</p>
8/12 (土)	藤田 琉愛	<p>朝バディのお父さんに、パッションフルーツのジュースを飲ませてもらいそれがとてもおいしかったです。午前中はバディの妹のケイリーと散歩に出かけました。オーストラリアは本当に自然豊かで野鳥もたくさんいました。</p> <p>午後からは、Mareny Botanic Gardens&BirdWorld という野鳥の保護区に連れて行ってもらいました。広大で自然豊かな景色がとても綺麗で、赤や黄色や緑のカラフルな鳥がたくさんいました。ふれあい広場では、頭の上に鳥が乗ってきてとても驚いたけど、初めての経験ができて本当に楽しかったです。</p>
8/13 (日)	峯重 斗哉	<p>楽しみにしていたミートパイを食べることができました。いくつか食べ方があり、僕は思いきりかぶりついて食べました。とてもおいしかったです。</p>

日付	報告者	活動内容
8/14 (月)	瀬口 奈々	<p>今日はステラの友達とそこにホームステイをしている吉村さんと一緒に電車に乗って EKKKA というお祭りに行きました。最初は人生初のお化け屋敷に入って怖かったけどとても楽しかったです。他にもいろいろ見たり乗ったりしました。牛や馬、鶏、アヒルなどいろいろいて新鮮でした。特に鶏は大きくて驚きました。アトラクションが全部怖そうで、唯一乗れそうと思って乗ったものも怖かったです。帰りの電車の中も楽しくていろいろ喋ったり笑ったりしました。ステラの友達とも話せてよかったです。今日は今までよりもっと仲良くなれた気がしてとても楽しかったです。</p>
8/15 (火)	吉村 蒼生	<p>レッドクリフステートハイスクールに行きました。緊張せず自己紹介ができました。バスに乗って動物園に行きました。動物園では見たこともない動物がたくさんいました。そして、コアラや蛇に触れたり、カンガルーに餌をあげることができて楽しくて、嬉しかったです。</p>
8/16 (水)	西岡 妃	<p>今日は小学校に行きました。みんな元気がよくて、一緒に写真を撮ろうと誘ってくれてうれしかったです。ジェンガや UNO などたくさんゲームをしました。コマのやり方を教えてほしいと言われたのですが、私もできなくて困りました。でも、けん玉は得意なのでちゃんと教えることができてよかったです。</p>
8/17 (木)	青木 歩未	<p>レッドクリフ図書館→美術館→博物館の順で遠足に行きました。自分のホストバディがいなくて上手くやっていけるか心配だったけど、少しだけ話の内容がわかることができてよかったです。</p>
8/18 (金)	前田 彩花	<p>今日はさようならパーティーでした。もう帰らないといけないという気になりました。オーストラリアの生徒といっぱい話せました。そして、写真を撮ったりインスタを交換したりしました。嬉しかったです。出し物の「ももたらう」はうまくいったと思います。折り紙もよろこんでくれました。</p> <p>20時頃夜景を見に山の上に行きました。そこは多くの人が行くスポットだと教えてくれました。ブリスベンを一望できました。</p>

日付	報告者	活動内容
8/19 (土)	西岡 妃	<p>今日はホストファミリーと過ごすことができる最後の日でした。</p> <p>午前中はバディの弟のバスケの試合を見に行き、昼は sushi train というところに行って寿司を食べました。バディの弟に箸の使い方を教えたところ、喜んでくれてうれしかったです。夜は韓国料理を食べに行きました。その後バディとプリクラのようなものを撮りました。家に帰ってからみんなで写真を見返して思い出を振り返りました。</p>
8/20 (日)	篠原 希美	<p>今日の朝に、「サンデーマーケット」に行きました。いろいろな出店があり、雑貨や絵、ドリンクや食べ物が売ってありました。アロマキャンドルを作るお店があり、自分好みの匂いを選んで作りました。アロマキャンドルは初めて作ったので、とても楽しかったです。</p> <p>最後にホストファミリーから「来てくれてありがとう」とお土産をもらいました。お菓子やダイヤモンドアート等、私が好きだと言ったものを覚えてくれ、プレゼントしてもらったので嬉しかったです。</p> <p>ホストファミリーと最後のお別れをしたとき、私は泣いてしまいました。Amie が「I miss you.」と言ってくれ、「Me too.」と返しました。十日間と短い間でしたが、ホストファミリーにはとてもお世話になり、一生の思い出になりました。</p>
8/21 (月)	藤田 琉愛	<p>飛行機の乗り継ぎのため、10時間以上も台北桃園国際空港で過ごしました。この12日間は英語ばかりの生活だったけれど、台北は中国語ばかりで、そのギャップに困惑しました。それでも英語を交えてなんとか話をしたり、日本語を話せる店員さんもおかげで食事や買い物ことができました。空港内を派遣生といっしょに回って楽しかったです。</p> <p>飛行機に乗り日本に到着したときは、不思議な気持ちになりました。本当にあつという間で、とっても楽しい夢のような12日間でした。素敵で貴重な体験ができました。</p>



竜王中学校3年

あおき あゆみ
青木 歩未

1計画(PPLAN)

- 1、英語力を伸ばす、リスニング力を強くする。
→ホストファミリーや学校の人たち、買い物などで積極的に話してみる。
- 2、オーストラリアの文化を知る、また日本の文化も伝える。
→日本の文化として食文化を伝える。

2行動(DO)

- ・どうやって使うのか、分からないことがあったらまず聞くということを意識して生活しました。
- ・買い物でまだお金の使い方を分からなかったとき「これであってる？」と勇気をだして聞いてみたら教えてくれたので伝えられてよかったと思いました。
- ・とても自分のお気に入りのお菓子を見つけた時すごく喜んで「大好き！」と伝えたらどこで買えるかやランチに入れてくれたりして伝えてよかったと思いました。
- ・何言っているか最初ほとんど分からなくて翻訳機に頼っていたけど、集中して知っている単語を聞き取って考えて、単語をつなぎあわせたらどうにか伝わったりしたので良かったです。
- ・日本の食文化として梅を持って行ったけどあまり人気がなかったです。でもラーメンは人気でした。

3評価(SEE)

☆75点☆

理由1

自分から話しかけずにバディから話しかけてもらうことが多かったことです。恥ずかしがらず伝えたいことを単語でも伝えられたらよかったなと思いました。

理由2

急に話かけられたら対応ができなかったからです。びっくりして固まってしまったことが多くありました。話は聞いていたけどなんて答えたらいいのかわからなくなってしまうことが多かったです。

自分からなにを話すかなど最初から決めていたら英語でも対応しやすかったと思うので最初から考えたり話しかけられても動揺せずに対応できたりできるようになりたいです。あと英語の文法も大切だと思うけどもっと大事なのは単語とリアクションを豊かにすることです。何を言いたいかわからなくても表情で読み取ってくれたりするのでリアクションは豊かな方がいいと思いました。

この経験を日本でも海外でも生かしたいと思います。



派遣生徒レポート～ホームステイについて～

学校生活について

- ・ オーストラリアは中学校というのがなく小学校を卒業したら7年生になることが分かりました。
- ・ 学校がスタートする前はみんな友達と話したり遊んでいたりゆっくりしていてクラスにずっといるイメージはなかったです。
- ・ ランチでは弁当がほとんどで売店がありました。売店ではカードオンリーでした。
- ・ 学校から帰る時間がとてもはやかったです。2時過ぎには下校でした。



ホームステイについて

- ・ 家が大きかったのが第一印象です。私の家は2階建てで1階は靴を履いていても履いていなくてもどちらでもよくて2階は土足禁止でした。日本にある玄関や靴箱というものがなかったです。
- ・ 犬と一緒に暮らすという感じの暮らしでした。犬も家のなかではあまり縛りはなかったです。散歩に行くときは吠えたり噛んだりしないようにリードを付けている大型犬が多くいました。
- ・ 自分が住んでいる地域より海を見ることができる場所が多くて夜海の近くに散歩しに行くことが多かったです。
- ・ 日本より水が貴重でお土産屋などではジュースと水の値段が同じということがよくありました。



印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

- ・ 動物との生活を大切にしていました。日本と違って犬が使える砂浜があったりしました。
- ・ 健康思考の人が多かったです。自転車でサイクリングやウォーキングをしている人、障がいを持っている人も自転車に乗って楽しんでいる人がたくさんいる印象でした。
- ・ 日本のお菓子は人気でした。(キットカットの抹茶味など)なので抹茶のお菓子は持って行った方がいいと思います。
- ・ 家のルールは聞けるなら聞いた方がいいと思います。
- ・ 話すのが苦手なら名刺を持って行った方がいいと思います。Instagramをつなげる?と聞いてくることもあるので名刺に書いて渡せるようにした方がいいと思います。



お世話になったホストファミリー



父:Dillon

母:Tiffany

おば:Cassandra

姉:Emily

バディ:Holly

弟:Jacob



竜王中学校2年

にしおか ひめ
西岡 妃

1計画 (PLAN)

○コミュニケーションをたくさんとる。

→完璧な英語は話せなくても単語やジェスチャーで伝える。自分から積極的に話す。

○オーストラリアの文化を知り、日本の文化を教える。

→ネットでは分からないことを自分から聞いたりする。箸を持って行って使い方を教える。

○オーストラリアでの生活を楽しむ。

→日本とは環境も生活もちがうから困ることが多いと思うけどそれ以上にオーストラリアの自然や食べ物を楽しめる。

2行動 (DO)

完璧な英語じゃなくてもとにかく単語やジェスチャーで伝えようと思いました。そしたら理解してくれてうれしかったです。オーストラリアの事についてもたくさん聞いたし、日本についてもたくさん聞いてくれてうれしかったです。

3評価 (SEE)

☆90点☆

正直、最初は翻訳アプリばかり使ってしまいました。でも、だんだんジェスチャーや単語でも話せるようになってきたのでこの点数にしました。次に外国の方と話すまでには少し話せるようになっておきたいです。



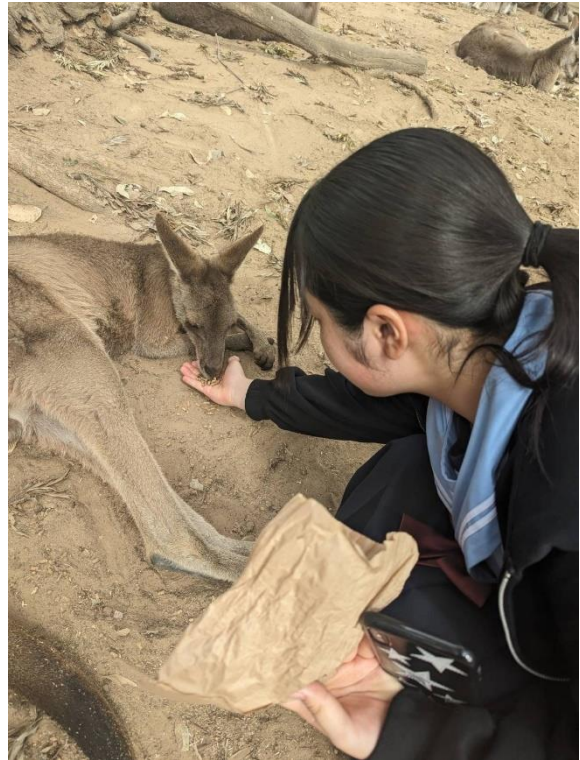
派遣生徒レポート～あっという間の10日間～

学校生活について

オーストラリアの学校は日本とまったくちがっておどろきました。

まず登下校です。日本はだいたい徒歩か自転車ですがオーストラリアは徒歩や自転車の人もいましたが車やバスの方が多かった気がします。私はホストファザーが車で行きも帰りもつれてってくれましたが、一度だけスクールバスに乗りました。すごくゆれて、こけそうになりそうくらいでした。帰る時間も14時30分とかで早かったです。スマートフォンも持ちこめて学校に売店みたいなのところもありました。授業も日本とちがって自分が受ける教科で教室を移動していました。

先生も生徒もみんなフレンドリーです。日本語で話しかけてくれてうれしかったです。すれちがったりしたときも、「こんにちは」と日本語であいさつをしてくれたり、手をふったりしてくれる人も多くてすごくうれしかったです。そのおかげもあって、学校に行くのが不安じゃなくてすごく楽しみでわくわくしていました。



ホームステイについて

私のホストファミリーは日本が大好きで、箸もふつうにありました。「これは日本語で何と言うの?」や「このおかし日本にある?」などたくさん質問してくれました。おすしなどの日本食も何度か食べさせてくれました。

いつもにぎやかでバディと弟とほぼ毎日マリオカートをしたり、UNOをしていました。弟はポケモンがすごく好きで日本からポケモンカードやポケモンのおかしを持っていくとよるこんでいてうれしかったです。バディとはすぐ仲良くなれて、今でも毎日連絡をとりあっています。妹はダンスをおどるのが好きで曲がながれたら首をふって曲にのっついてすごくかわいかったです。ホストファザーは、親父ギャグを言ったりして場を盛りあげてくれました。ホストマザーは、常にわらっていてすごくおもしろい人でした。ドライブをするときも、音楽をかけていたのですがそれにみんながのったり、歌ったりして楽しかったです。

私はホストファミリーと生活する中で困ったことはなかったですが、日本とちがうなと思ったところは、入浴の時間です。私は毎日シャワーを使って体も髪も洗っていいと言われましたが、水下足ということもあり5分以内には終わらせてほしいと言われました。でもすごく疲れたときは 浴槽につかって長い間お風呂に入っているよと言われました。

レッドクリフのたくさん場所につれていってくれたし、サポートもたくさんしてくれて本当にいいホストファミリーだったなと思いました。

最終日の別れのときに日本に帰ってほしくないと言って一緒に泣いてくれたりバディとおそろいのネ

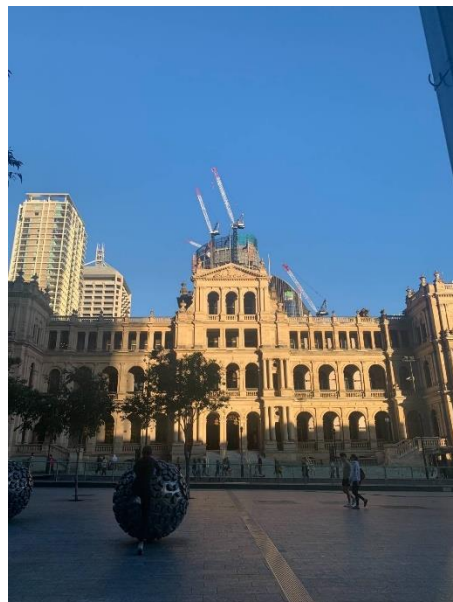
ックレスもくれてうれしかったです。不安もあった 10 日間だったけどホストファミリーのおかげで楽しくすごせていい経験になりました。来年の春日本に来ると言っていたので楽しみです。

印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

オーストラリアにもセブンイレブンやダイソーなど日本にあるものがたくさんありました。

本当に毎日が楽しい 10 日間でした。来年の派遣生徒にはとてあえずこわがらずに完璧じゃなくても英語をたくさん使ってほしいです！

私は私が思っていた以上にオーストラリアの方はフレンドリーでたくさん話しかけてくれました。正直、私は完璧な英語はまったく話せなかったです。でも理解してくれます！私は夢ができたしすごく良い経験でした。



お世話になったホストファミリー



父:Stefan

母:Deborah

バディ:Prilia

弟:Taylin

妹:Rylah



小野田中学校3年

よしむら あおい
吉村 蒼生

1計画(PPLAN)

恥ずかしがらず、積極的にどんどん話しかける

2行動(DO)

行動…たくさんの人と話をした

感じたこと…オーストラリアの人達は、たくさん話しかけてくれ、とても楽しく、賑やかに対応してくれた。

3評価(SEE)

☆80点☆

日本とオーストラリアの文化や伝統の違いをみんなに共有し、たくさんの人に興味を持ってほしいと思う。

うまく言葉が通じなくても、ジェスチャーや単語でも伝わるため、他国の人と積極的にコミュニケーションをとって、いろんな人と関わりを持っていきたい。



派遣生徒レポート～オーストラリアでの10日間～

学校生活について

学校は日本に比べるととても大きく、人数が1000人以上いる大きな学校です。生徒の人達は全員とても日本語がうまくてびっくりしました。それに、学校は自由で、規則が厳しくなく携帯電話を持ってきていいことやピアスをしていること、外ウーが描かれていたり日本では考えられないほど自由であると感じました。

オーストラリアの人達はとても優しく、にぎやかな人達ばかりです。学校を歩いているだけで名前を呼んでくれ、たくさんの人とコミュニケーションをとることができ、楽しかったです。図書館でオーストラリアの文化を教えてもらうことができます。

今回の経験で、実際の英語でのやり取りはかっこよく感じ、自分もうまく英語でコミュニケーションを図れるように努力したいと思いました。

ホームステイについて

僕が行ったホームステイ先は家族全員がこころよく受け入れてくれました。とてもいい家族に恵まれ、とてもにぎやかで笑いが絶えない家族でした。休みの日には、いろいろな所へも連れて行ってくれました。

ホストファミリーは、ホストマザーのジョディ、ファーザーのサイモン、15歳のバディーのハンター、12歳の妹エヴァ、9歳の弟ブロンソン、テディというトイプードルの5人+1匹の家族です。妹と弟がサッカーをしていて、応援にも行きました。初めは早すぎて何を言っているのかも分からず、英語で思いが伝えられず、コミュニケーションをとるのがとても大変でした。うまくジェスチャーを使って伝わった時はとてもうれしく思いました。愛犬のテディが懐



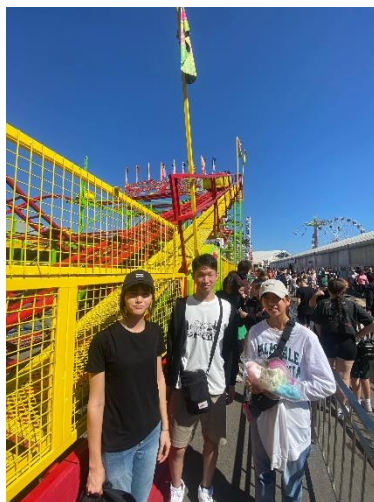
いてくれて、僕のベッドに寝てくれて寂しさを吹き飛ばしてくれました。始めは、ホームステイが不安で仕方がなかったけど、家族と海などいろいろな所に行き、仲良くなり、楽しく過ごすことができました。ある日バディーとIKAという大きなテーマパークに行きました。そこは大きく、海外に来ていると感じさせる場所でした。英語がうまく話せなくても、みんなで楽しく過ごせました。ホームステイでの生活は、学校が遠いので朝が早く、夜寝るのも早かったので、健康にはいい生活ができます。

最初はコミュニケーションがとれず、アプリに頼っていたけれど、最後には少し聞き取れるようになり、コミュニケーションもうまくとれるようになったと思います。帰国の日には、別れて帰るのが寂しく思いました。海外で出会ったこの機会を忘れずいろいろな文化を知り、たくさんの人と関わりを持ちたいと思います。

印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

今回の派遣で印象に残っているのは動物園です。なぜなら、蛇や亀に触れたり、近くでコアラやカンガルーに餌をあげたり撫でたりと、初めての体験をすることが出来ました。あとは、物価が高いと思いました。日本は水が160円ぐらいですが、オーストラリアでは400円ぐらいしました。水の価値など、国によって違うことも知ることが出来ました。気候も違うこと、冬なのに日本に比べて寒くないことなど、こんなに違うのだとびっくりしました。

英語は話せなくても、ジェスチャーや単語だけを並べても相手は理解しようとしてくれます。とても優しい人達です。そして、どんどん質問することが大切だと思います。



お世話になったホストファミリー



父: Junior

母: Jodie

バディ: Hunter

妹: Eva

弟: Bronson



高千帆中学校3年

せぐち なな
瀬口 奈々

1計画(PPLAN)

- コミュニケーションを積極的にとって、苦手なリスニングを克服し、コミュニケーション能力を高める。
→・積極的に話しかける ・両国のお菓子や料理を一緒に作る ・駄菓子を持って行って一緒に食べる ・日本の写真を持って行く ・文法がわからなくても身振り手振りで伝える
- 初めてのことで苦手意識を持たず、チャレンジして異文化にふれる機会を多くもつ。
→・見たことがない物でも食べてみる ・オーストラリアの文化に合わせてみる

2行動(DO)

ステラのお母さんとは、最初翻訳機でコミュニケーションをとっていたので、頑張って翻訳機なしで会話してみたいと伝えるとジェスチャー付きでゆっくりと話してくれてとても嬉しかったです。遠足の時にできた友達にも同じことを伝えると、その友達もジェスチャーでゆっくり話してくれて、博物館を案内してくれ、説明までしてくれました。少し長文で難しかったですが、集中すればなんとか内容は理解できて充実していました。何回聞き直しても根気よく教えようとしてくれたことがとても嬉しかったです。

3評価(SEE)

☆80点☆

ステラとはたくさん話したけど、学校ではなかなかコミュニケーションがとれなかったのと、上手く伝わらず、つまったときはあきらめたことも多かったので-20点の80点。

私は将来の夢がまったく決まっていませんでしたが、この経験を通して、将来オーストラリアに関わる仕事がしたいなと思いました。なので、オーストラリアに留学したいと思ったのですが、私が英語を話しても1, 2回では伝わらず、ステラが家族や友達と話している言葉はまったく聞き取れなかったのので、今後は英語の勉強に力を入れようと思いました。



派遣生徒レポート～笑顔は正義～

学校生活について

学校に行くときは、バディ(ステラ)のお父さんが、毎日、車で送ってくれました。学校の近くの道路には車を止められるスペースが作られていました。ステラに聞くと学校では化粧はOKで髪の色も自由だそうで、実際に学校に行くと髪の色が赤だったり、ピアスをたくさんしていたり、とても自由な感じがいいなと思いました。なぜ日本では、校則が厳しいのかと思い日本とオーストラリアの校則の違いについて少し考えてみました。オーストラリアではあえて校則をあまり厳しくせず、本人に任せることと、子どものうちから自分の好きなこと興味があることに自然と関心を持てるようになるので、結果的にそれがそれぞれの個性を伸ばすことにつながっているのかなと思いました。勉強についてもあまり課題を課さず、自由さを重視することで自分の学びたいことをより深く学べることができし将来自分のなりたいものがきちんと決まっていれば近道にもなるので、これもまた「個」という考え方が強いんだなという印象を受けました。一方、日本では校則にファッションなどの制限を設けることで、勉強に集中することができる為、自分に広い知識を身につけ、将来就く仕事の選択肢多くもてるようにしているのかなという風に感じました。

ある日、いつもズボンの制服のステラがスカートをはいていたので「今日はスカートなんだね」というと、私の英語で、どこまで正しく聞きとれたかは分かりませんが、多分、曜日ごとで、スカートとズボンの日が決まっているみたいな感じのことを説明してくれました。昼食を食べるときは、日本みたいに教室で黙って前を向いて食べるのではなく、各々好きな場所で友達と弁当を食べるという感じでした。私のお弁当は、基本サンドウィッチで具が卵だったりからあげだったり、他にもみかんがあったり、ポテトが入っていたりしました。購買みたいなものがあるみたいで、パンとかを買っている人もいました。昼休みは食べる時間を含めて1時間で日本と同じくらいかなと思います。学校はかなり広い印象を受けました。教室の際は外を通り教室に入っても土足でした。外歩道橋みたいなものがあったことも驚きました。体育館やバスケットコートみたいなものもありました。ハンドボールという遊びをしました。4人で円になってラケットのかわりに手をつかったテニスみたいなスポーツでネットはありません。正確なルールは分かりませんでした。とても楽しかったです。伝わるかどうか、びくびくしながら話しかけたところも優しく笑顔で真剣にきいてくれる姿を見ると、勇気をだして話しかけてよかったと心から思いました。

ホームステイについて

初日は、長時間フライトの私を気遣ってくれて、部屋で休んでいいよと言ってもらい、1時間くらいねることにしました。しかし私はいつも布団で寝ていたのこっちのベッドを見て驚きました。枕がいっぱいあって、掛け布団みたいなものも見あたらず最終的には、ネットで正解の寝方を検索しました。

ホストファミリーの人達は毎日「元気?」とか、「おいしい?」「楽しい?」とか聞いてくれてステラのお父さんはよく「これは何というでしょう」と英語レッスンでコミュニケーションをとろうとしてくれたことがとても嬉しかったです。ある日、女子サッカーの世界カップがテレビで流れていてシドニー対イングランド



だったので、一緒に応援しました。ステラの上のお姉さんとその彼と一緒にみていたので思いきって「どっちが勝てそう?」ときいてみるとどうにか伝わったらしく、状況を説明してくれました。そこで、日本はどうなったのかをきくとわざわざ調べてくれて負けていたことが分かりました。話せたことで少し仲良くなれた感じがしてとても嬉しかったです。

私は、自分のタスクとして、水ようかんを作ることと花札をすることと折り紙をすることを決めていました。水ようかんはステラと一緒に少量の足りないあんこで「about about」といいながら水や粉を入れてなんとか作りました。すると、案の定味が微妙になりましたが、ステラは「おいしい、おいしい」と食べてくれて、とても嬉しかったです。花札は、ルールを伝えるのが難しくて大変でした。ネットで調べた花札の役一覧サイトをお互いに開いておいて、「これができそうだよ」と私がステラに伝えながら、だんだん慣れてきて楽しく対戦できました。折り紙は難しいかなと思ったら、意外に上手で鶴とか花とかくす玉と一緒に作りました。ステラが折り紙の本を持っていたことにも驚きました。

私は日本からのお土産に「楽しいお祭り屋さん」「楽しいお寿司屋さん」などの知育菓子を持って行っていたので、ステラと一緒に「楽しいお寿司屋さん」の方を作りました。2人で作り方を見ながら頑張って作りました。休日には、ショッピングモールにも行きました。プリクラを撮ったり、買い物をしたりしました。日本のプリクラの加工技術ってすごいと驚きました。今度ステラが日本に来た時は加工をかけまくって反応が見てみたいなと思いました。ステラがコアラのぬいぐるみとアクセサリーを買ってくれました。普段私はあまりアクセサリーをつけないのですが、ステラが選んでくれてとても嬉しかったし、距離を縮めるきっかけにもなるかと思い、それから出掛ける時は毎回つけるようにしました。お昼は、ステラのお姉さんで行っていたので3人で食べました。最後にお姉さんがタッパーみたいな容器を注文したので何をするのかなと思っていたら、余ったのをつめて持って帰るらしく日本ではあまり見かけないことだったけど、食品ロス対策には、とてもいいなと思いました。

ホストファミリーの人達は、本当に優しくてまたここにホームステイしたいと思いました。今度はもっと長く…。



印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

伝えたいことは、2つあって、1つは水のことです。ショッピングモールで辛い唐揚げみたいなのを食べましたが日本みたいに水が出てくる習慣がなくて口が大変でした。水を注文するか始めから水とかお茶を持っていくべきだと思います。2つ目は、表情です。ステラは、私が話すとき「ん？どうしたの？」という顔をしてくれて聞いてくれてるんだなという感じがして、とても話しやすかったです。なのに私は、笑う時以外は、ほとんど真顔でもう少し表情豊かになれたらなと思いました。笑顔と自分が思うより少しオーバーなリアクションで何でも乗り越えられますよ？



お世話になったホストファミリー



父: Made

母: Jarman

姉: Riley

姉: Mari

バディ: Stella



高千帆中学校3年

みねしげ とうや
峯重 斗哉

1計画(PLAN)

僕の海外派遣事業に参加するにあたっての目標は、普段とちがったその国での日常を理解して広い視野をもつことです。

そのために、物事に対して積極的に取り組み、自分の語学力向上や、異文化理解を深めることができるように12日間過ごしていきたいです。

2行動(DO)

僕がいちばんやってみたかったことは、野生の動物に触れることです。オーストラリアでは、野生のカンガルーをたくさん見ることができました。野生のカンガルーは、危ないと言われたので、そこまで近くに行けなかったけど、写真を撮ったり、カンガルーをみることでうれしかったです。

3評価(SEE)

☆90点☆

この12日間は、自分の英語力を試すいいきっかけになりました。僕は将来、英語の先生になりたいと思っています。この経験を生かしてこれからの学習に役立てたり、海外の良さをより多くの人に伝えていきたいです。



派遣生徒レポート～あっという間の10日間～

学校生活について

僕が実際に学校生活を体験してみて、オーストラリアと日本では、こんなにもちがいがあるのかと驚きました。オーストラリアの学校はアットホームで、先生や生徒の距離も近く、すごしやすい環境でした。

オーストラリアの生徒は初対面でも、ずっと前から友達だったみたいに気軽に声をかけてくれたので、言葉の壁を感じることなくコミュニケーションを楽しむことができました。話していて、オーストラリアの人は、けっこう日本に興味を持っていて、日本についてたくさん聞かれたので、たくさん答えたり、自分もオーストラリアについてたくさん知ることができました。日本とちがって、学校にスマホを持ていくことができたので、写真を見せたりして、日本のよさを、たくさんの人に知ってもらえたので、もっと日本に興味をもってくれたらうれしいです。



ホームステイについて

オーストラリアの家庭で生活することで、オーストラリアの日常について直接体験でき、理解が深まりました。家族はとても暖かく、僕のことを家族の一員として迎えてくれました。家族と一緒にすごす中で、食事や文化のちがいについてたくさん学ぶことができました。僕のホストファミリーは、外で食べることが多く、1日目の夜には海の近くで海を眺めながらフィッシュアンドチップスを食べました。ホームステイ中、たくさんの自然に触れることもできました。美しいビーチに行ったり、ピクニックに行ったりしました。僕が一番印象に残っているのは、家の近くに広大な自然があり、そこにたくさんの野生のカンガルーがいて、それを見ることができたことです。カンガルーが野生でいることにはとても驚きました。ホストマザーから、野生のカンガルーは危険だと教えてもらいました。近づくことは難しく残念だったけど、最大限まで近づいて写真を撮れたことはいい思い出です。

また、ホームステイ中に誕生日をすごしました。サプライズでケーキも用意してくれました。とてもうれしかったです。



印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

はじめのほうは、英語を使ってコミュニケーションをとることはとても難しかったです。でも、ホストファミリーは自分の話を最後まで聞いてくれました。「できなくても、まずはチャレンジする」これが一番大切だと思います。単語を並べるだけでも、ジェスチャーを使ったりして、自分の伝えたいことを伝えることができました。

お世話になったホストファミリー



母: Gemma

バディ: Lachlan



厚狭中学校2年

ふじた るな
藤田 琉愛

1計画 (PLAN)

①英語をとにかく話す

慣れない環境の中でも積極的に話をする。文法を意識しすぎずたくさん単語を話す。

②とにかく楽しむ

日本から持って行ったものをプレゼントしたり、日本のことを話したり、たくさん交流する。バディや現地の方とたくさん話をしてオーストラリアのことも教えてもらったり、一緒に楽しむ。

2行動 (DO)

特に最初は、緊張とネイティブの英語に圧倒されてたくさん翻訳を使ってしまったけれど、とにかくいろんな人と話をしようと意識しました。レッドクリフハイスクールの人たちとローンパインコアラサンクチュアリに行ったときや、ハンピーボング小学校に行ったとき、遠足でレッドクリフの図書館・美術館・博物館に行ったときには、学生の皆さんとたくさん話をするのができたし、自分からも話しかけることができました。仲良くなった方とは写真も撮りました。どの人も話をよく聞いてくれて、私が話すのを待ってくれたりして優しく親切に接してくれて嬉しかったです。本当は翻訳に頼らずに、自分の力で話ができたらもっと良かったと思うので、英語をもっと勉強しようと思いました。

3評価 (SEE)

☆80点☆

とにかく翻訳をたくさん使ってしまったことが一番の減点理由です。ネイティブの英語に圧倒されてしまい、自信がなくなって調べてしまう、うまく言葉が思いつかない状態で、翻訳してみると知っている簡単な単語でよかったということも多くありました。自分が持っている英語の力が発揮できたら、もっと良かったです。また、自分が持って行ったお土産やお菓子などホストファミリーと一緒に食べたり、使ってみる時間をもっととれば良かった、もっと話しかけておけば良かったと思います。派遣事業は私にとってチャレンジの連続でした。たくさんの方と出会い、目をあわせてあいづちをしたり、一緒に笑ったり、いろんな経験をして本当に素晴らしいに体験ができました。この経験を活かして、もっと自信を持ってたくさんの人とコミュニケーションとったり、色んなことにチャレンジしていける人になりたいと思います。



派遣生徒レポート～最高に楽しんだ海外派遣～

学校生活について

とにかく学校が広かったです。学校の周りは自然があふれていて、鳥の鳴き声もよく聞こえてきました。私たちが過ごした日本語クラスには、日本のキャラクターが飾ってあったり、日本語で書かれた掲示物や日本の文化を知れるものがたくさん飾ってありました。日本人の私が見てもワクワクしました。特に、数字が漢数字で書いてある時計が印象に残っています。そして、その教室でバディの Shana に初めて会いました。Shana とはメールや Instagram の DM 機能を使ってたくさんやりとりをして一度ビデオ通話もしていたので、初対面のときに目が合ったときにはお互いになっこり笑顔になりました。ホームステイ前にたくさん連絡を取って仲良くなっていたので、すぐに打ち解けることができ良かったです。

学校に通ったのは 4 日間で、そのうち 2 日間は遠足がありました。最初の遠足は、ローンパインコアラサンクチュアリという動物園に行きました。行きのバスで隣になった人と、翻訳を使いながらたくさん話をして仲良くなり友達になりました。動物園ではトカゲカモノハシ、コアラなどのたくさんの動物を見ました。忘れられないのはコアラの背中を触らせてもらったこと! ぽかぽか温かくて、ふわふわでした。

次の遠足は、レッドクリフ内の図書館、美術館、博物館に行きました。博物館にはレッドクリフの歴史などの展示物があって、古い家具などからは生活の歴史を感じることができて面白かったです。

遠足の他には、ハンピーボング小学校を訪問しました。ジェンガやけん玉、お手玉などで遊びました。みんな弟や妹みたいで可愛かったし、私にたくさん話しかけてきてくれる男の子がいて、仲良くなって最後に一緒に写真を撮れたのが嬉しかったです。小学生たちの英語はとても早くて聞き取りにくかったけど、意味をくみ取って会話することができました。

あっという間に学校生活が終わり、最後の日は体育の授業のあとにさよならパーティーがありました。体育の授業では、ボールを使って鬼ごっこをしました。とっても足の速い運動神経抜群な女の子が同盟を組んでくれて、運動が苦手な私にはとても心強い味方ができて嬉しかったです。



さよならパーティーでは、日本で準備していった英訳紙芝居と折り紙を披露しました。英訳紙芝居で私は三年寝太郎を読みました。英語で読むのは難しく、緊張も重なり詰まったりしたけど、最後まで頑張って読むことができました。折り紙はプレゼントしたり、犬やコアラの形に折った折り紙に顔を描いてもらったりして好評でした。その後はピザやお菓子をみんなで食べてパーティーを楽しみました。

そのほかに、毎日のランチタイムもとっても楽しかったです。日本のお弁当とは違って軽食のような感じで、お菓子やサンドウィッチ、丸ごとのリンゴ、初めてリンゴを丸かじりました。とても自由で楽しかったです。日本もこんなランチタイムだったら良いのと思いました。レッドクリフハイスクールに通った 4 日間を通して、日本と全く違う学校生活を体験することができました。ハイスクールの人や多くの人と交流できたこと、色々な体験が本当に楽しくて最高の思い出になりました。

ホームステイについて

私のお世話になったホストファミリーは、バディの Shana、Shana の妹の Calleigh、ホストマザーの Rowena、ストファザーの Brad、そして現在は独立して家を出ている Shana の 25 歳のお兄さんの 5 人家族でした。そして、犬が 2 匹。黒のラブラドルのロッキーとシェパードのタッカー、どちらもとても大きくて人なつっこくて、椅子に座って食事しているとテーブルの下にロッキーが来て私の膝に顔を乗せてきた時には、可愛くてたまらず写真を撮りました。犬を飼ったことがない私には新鮮で本当に可愛かったです。



ホストマザーがフィリピン出身でホストファザーがニュージーランド出身のご夫婦で、ホストマザーはフィリピン料理を食べさせてくれ、ホストファザーは私が鳥が好きなのでニュージーランドの国鳥のキーウィが印刷されたコースターをくれました。



Shana は 17 歳での妹の Calleigh は 16 歳。二人が本当のお姉ちゃんみたいに優しく接してくれました。始めは緊張していた私も、ホストファザーが「Don't be shy」と言ってくれて和ませてくれたり、たくさん話しかけてくれたりしてくれて、リラックスして過ごすことができたし、元はお兄さんの部屋を私にに使わせてくれて一人の時間も大事にしてくれて本当に居心地が良かったです。

ホストファミリーとの休日では、私が鳥が大好きなことを伝えていたのもあり、MALENY BOTANIC GARDENS & BIRD WORLD というところに連れて行ってくれました。カラフルな鳥が頭や肩に乗ってきて、びっくりしたけど至近距離で鳥がたくさん見られて本当に幸せな時間でした。

また別の日には、マウンテンバイクに乗って長距離ツーリングをしました。マウンテンバイクで長くて車の車線が何車線もある大きな橋を渡りながら、綺麗な海を横目に眺めて気持ち良かったです。途中セブンイレブンに寄って、日本と違うコンビニの雰囲気にもびっくりしたのと、そこで飲んだコーラとブドウ味のシェイクがおいしかったです。普段運動不足の私にとって、3~4 時間のツーリングは足がパンパンになるくらいハードでしたが、とっても気分爽快でワクワクして楽しかったです。

他にも Shana や Calleigh と散歩や女子会、ゲーム大会、ボードウォッチング、ショッピングモールに連れて行ってくれたり、本当に数え切れないほどの思い出ができました。

ホストファミリーとの最後の休日、早朝から海辺へ出かけて日の出を見に行きました。朝日を見ながら、「もう明日には帰るんだな。」と実感がわいてしみりました。その後ブリスベンの大都会の町並みを見せてくれました。まだここにいたいと思うほど、オーストラリアの生活が気に入っていました。

ついに帰国日。お別れするときには寂しくなって、ホストファミリー全員とハグしました。また会いたい。これからも連絡を定期的に続けて話がしたいです。本当に忘れられない思い出ができました。



印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

私はこの海外派遣事業を本当に楽しみました。自然が豊かで、温かいオーストラリアの人の雰囲気が本当に大好きになりました。このまま住みたい気持ちになりました。初めての外国で、日本と違う雰囲気、文化も生活も食事も違った感じがしたけれど時間とともに慣れて、たくさんの初めての経験にチャレンジして思い切り楽しむことができました。うまく言葉で伝えられないときには、相手に申し訳なくなったり、私自身が残念に感じることもあり、生活する上で伝えたいことや話したいことは絶対に伝えたい方が良く思うので、翻訳も必要だと感じました。もっと英語が話せ理解できるようになりたいと思いました。

もし、この海外派遣事業に参加してみたいと興味を持った人がいたら、是非挑戦してみたいです。言葉が話せなくても表情やジェスチャー、翻訳などを使って伝えることができるし、皆さん優しくしっかり話を聞いてくれます。そして、海外派遣事業に参加したときは、勇気を出して色々なことに挑戦して、とにかく楽しんで、一生ものの思い出をたくさん作って来てください。



お世話になったホストファミリー



父: Brad

母: Rowena

バディ: Shana

妹: Calleigh



厚陽中学校2年

しのはら のぞみ
篠原 希美

1計画(PLAN)

〈目標〉

- ・日豪間の交流をさらに深める
- ・現地の文化や魅力、生活様式を学び、自分の固定観念をなくす

〈達成するには〉

- ・現地の人と積極的に交流する
- ・先入観を持たず、色々なものを見て、体験する

2行動(DO)

- ・日本やオーストラリアのことについて話した

→オーストラリアと日本では、ルールが大きく違うことが多いと感じた

オーストラリアでは、スマホの持ち込みやピアスを開けることを許可されているが、日本では許可されていないこと

→日本での考え方、オーストラリアでの考え方は違うので、どちらも良さだと思った

3評価(SEE)

☆70点☆

- ・もっと互いのことについて話す事が出来たらよかった
- ・最初に、ほとんどグーグル翻訳を使ってしまったこと

〈どう活かすか〉

- ・私も、ホストファミリーとして生徒を受け入れ、上記の反省を活かしたいと思った



派遣生徒レポート～オーストラリアでのホームステイ～

学校生活について

今回、私達は、「レッドクリフ・ステート・ハイスクール」に通いました。この学校には、「Japanese class」という日本語を学ぶ教室がありました。この教室では、自己紹介の仕方、漢字、カタカナ、平仮名の読み書きなどについて勉強するそうです。また、日本の文化やアニメなどについても勉強し、学校の生徒と一緒に習字やけん玉をして遊びました。



そして、オーストラリアの文化についても教えてもらいました。オーストラリアの伝統的な踊りを披露してくれ、アボリジニ(先住民)の民族舞踊だと教えてもらいました。日本の伝統的な踊りや、アボリジニの絵等、実際に見たり描いたりする事が出来ました。オーストラリア独自の文化について知る事が出来て、良かったです。

学校では、音楽祭もあり、学年毎に演奏をしていました。管楽器演奏や、コーラス、弦楽器の演奏がありました。飲み物や食べ物などの出店があり、食事をしながら演奏を聴く事が出来るようになっていました。また、「ディベート大会」というものもあり、各学校の生徒3名が、一人4～5分程度の持ち時間でスピーチをし、一つの議題に対して討論をするというものでした。今回は、「アートは、リアルのものの方がいいのか、それとも空想上の方がいいのか」という議題で討論が始まりました。とても興味深いものだったので、私もしてみたいと思いました。

ホームステイについて

私のホームステイ先では、父、母、バディ、弟2人の5人家族でした。家がとても広く、自室を用意してくれました。水が貴重だと事前に伝えられましたが、お風呂や洗濯を毎日してもらう事が出来ました。しかし、なるべくシャワーの時間を短くし、使用する水の量も最低限にすることを心がけるのは大切だと思いました。

私はよくホストファミリーとアナログゲームをして遊びました。日本にもあるカードゲームや、日本では見ないゲームをし、とても楽しかったです。また、私が知っているカードゲームでも、ルールの違う遊び方があり、面白いなと思いました。

バディの子は、音楽が好きで、ピアノやフルートを演奏していました。また、吹奏楽部とコーラス部に入っており、音楽祭で演奏をしていました。フルートの演奏が上手く、家でもよく練習をしていたので、音楽が本当に大好きなのだなと思いました。

ホームステイ先では、犬を飼っていたので、よくビーチに行きました。オーストラリアの海はとても綺麗で、砂も細かく、波が押し寄せるとすぐに元通りになっていました。朝や夜に見るとまた違った良さがあり、綺麗だな、と思いました。オーストラリアの季節は冬ですが、気温が高く、日差しが強いため、海に入っている人がいました。日本の冬では見られない光景が、少し面白かったです。



西岡さんのバディの家で BBQ をした時に、現地の人達と交流をする事が出来ました。家には庭があり、そこでミニゲームをしました。とても盛り上がり、みんなで楽しむ事が出来て、嬉しかったです。その日は、Wカップが開催されていたので、一緒にオーストラリアを応援しました。サッカーの事についてバディの人に質問をし、話す事が出来たのが、嬉しかったです。

今回、ホームステイをして感じたことは、自分の気持ちを伝える努力をすることが大切だということです。簡単な英語でいいので、会話をするように心がけるといいと思いました。

印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

- ・ 私は、シャワーを毎日浴びる事が出来ましたが、各家庭によって違う場合があると思うので、なるべく水の使用量は最小限にした方がいいと思いました。
- ・ 翻訳機は、文章全てを打ち込むのではなく、わからない単語を調べるのに使用するだけの方がいいと思います。
- ・ 夕食を食べた後、自室に入るのではなく、なるべくリビングにいたいと思います。一緒にいる時間を長くし、交流を深めていってください。
- ・ スマートフォンはなるべく使用しないようにした方がいいと思いました。話しかけやすい、話しかけられやすい態度を自分から作るようにしてください。



お世話になったホストファミリー



父:Eiji

母:Jacquie

バディ:Amie

弟:Aidan

弟:Kai



埴生中学校3年

まえだ あやか
前田 彩花

1計画(PLAN)

(具体的) 文章がうかばなかった時単語やジェスチャーを使って、伝えようとする。

努力をする。

笑顔を忘れず、相手とちゃんとコミュニケーションをとれようにする。

日本食を一緒につくり、食べてもらう。

折り紙を教えたり、はしの使い方などを教えてあげたい。

(目標) 英語でたくさんの人と会話をする。

日本の文化を伝え、知ってもらい興味をもってもらおう。

2行動(DO)

初めは、話を聞きとれず翻訳機を3日間くらいはほぼ手放せませんでした。4日目ごろから、話の速さになれてきました。少しずつ聞きとれるようになりました。そこからは、初めて見たものには What's this? や使い方がわからなかったときには How to use~? と自分から聞くようになりました。ですが、きちんとした文章ではなく、名詞やジェスチャーだけで伝えてしまったことも多く、後悔しています。ホストファミリーや現地の方は、私が話す言葉をとても親身に聞いてくれるので、緊張して話さないのではなく、笑顔で、自分から話しかけに行きました。

いろいろな所にもつれていってくれて、とても楽しい10日間を過ごすことができました。日本では見れない動物を見たり、山の上にあるマーケットに行ったりしました。

とても貴重な体験でした。



3評価(SEE)

☆90点☆

理由は最初に翻訳機を手放せず自分から話しかけに行くことが少なかったからです。それ以外では、ホストファミリーにもわからないことがあるときには自分から話しかけに行き、学校で同じクラスになった人にも、自分からインスタグラムを聞いたりし、仲良くなることができました。

今後は、日本で外国人が困っていたときは、自分から話しかけに行き、助けたいと思います。そして海外に行くときには、リスニング力を高めてから、行って、なるべく翻訳機を使わずに会話ができるようになりたいです。

派遣生徒レポート～オーストラリアでの貴重な体験～

学校生活について

学校に行ってみて、初めての印象は驚きでした。ピアス、スマホ、お化粧品、お菓子もよく、学校から家に帰るのも、14時30分でとても驚きでした。日本とは違うことも多く、日本では禁止されていてもオーストラリアでは許可されているものも多くありました。学校が広く、教室も多くありました。そして、学校には売店があり、なんでも買えるようになっていました。みんなとても楽しそうに日本語を勉強していました。自己紹介を日本語で話したり、自分の好きなものをスライドにし、全て日本語で発表してくれました。そして、オーストラリアの生徒たちから話しかけてくれることも多く、とても嬉しかったです。

休み時間には、ボールで遊んだりしました。打ち返すと、みんながほめてくれたので、楽しくすることができました。みんなは笑顔で話しかけてくれるので、毎日たくさんの友達ことができました。単語や、ジェスチャーを使い話して、きちんとした文章になっていないときでも、理解しようと努力してくれます。本当に嬉しかったです。みんなが優しく、この学校に残ってここで勉強をしたい。と何度も思いました。それほど嬉しかったです。

みんなに支えられながら、とても楽しい学校生活を送ることができました。日本の学校と違うところも多けれど、オーストラリアの学校にもよいところがたくさんありました。そこを自分が体験できたこと、本当に貴重でした。

ホームステイについて

ホームステイ先の Hogan 家はホストマザーの Liz、18歳の Jazmine、そしてバディーの phoenix の3人家族で、家には盲導犬の訓練をしている、パピー、ジョニー、トビーとトーマスがいました。phoenixは私が困っていたときは必ず、「どうしたの?」と言ってくれました。ホームステイをして3日目くらいまでは、話の速さになれることはできず、「もう一度言ってもらえますか」と言ってしまうことも多かったので、phoenixは嫌な顔1つせず、きちんと答えてくれました。私は不安でいっぱいだったけれど、phoenixのおかげで、毎日が少しずつ楽しくなっていました。

phoenixは私を休みの日にいろいろな所へつれて行ってくれました。お母さんは、私が〇〇したい。と言ったら、すぐに叶えてくれました。私は、ホームステイをして7日目に、手形アートを phoenix としました。お互いの手に絵の具をぬり、板にそれをつけます。卵とアートができます。今ではお互いの家にかざってあります。とてもいい思い出になったと思っています。そして、夜に、家族と、友達の家を呼んで折り紙パーティーをしました。私が持っていった折り紙の本の中から、「これやりたい!」と言われたものを私が教えたりし、みんなが1人1つの物をつくることができました。みんな手先が器用で、集中して取り組んでくれたので3つ作品をつくることができました。とても喜んでくれたので、うれしかったです。

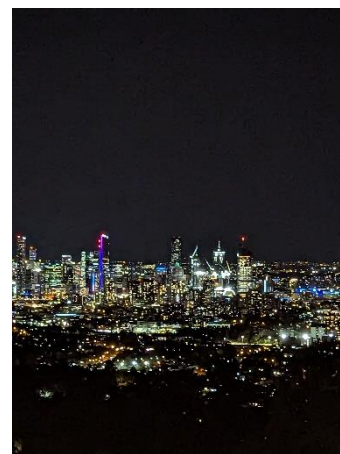


私はホストファミリーにうどんを作りました。みんなふだんから箸を使うことが少しあったそうで、持ちかたなどもきれいでした。美味いと言いながらみんなが食べてくれて嬉しかったです。そして Phoenix は写真をよく撮ってくれました。そして、TiKToKを2人で撮りました。私と phoenixは大爆笑でした。

今でも Instagram を使ってやりとりをしています。「またすぐ会える。まってるよ!」と Phoenix は何度も言ってくれます。私がまたいつか会いに行きたいと思います。

印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

オーストラリアの 10 日間は驚くことばかりだと思います。日本とオーストラリアでの文化などの違いにもびっくりしましたが、みんなの優しさに私は驚きました。全員が優しく、親身になって、私の話を聞いてくれるので私も翻訳を使わなくても、単語とジェスチャーで伝えようと思って後半はなるべく使わないように心がけました。そして笑顔でいるだけでも話しかけてくれる子が多くいます。そして自分の言いたいことはきちんとホストファミリーに伝えてほしいと思います。私は改めて、笑顔は世界の共通言語だと思いました。なので笑顔を忘れずに頑張ってください。



お世話になったホストファミリー



母:Elizabeth

姉:Jazmine

バディ:Phoenix



高千帆小学校教諭

なわた あゆみ
縄田 亜弓

令和5年度中学生海外派遣事業 帰国報告

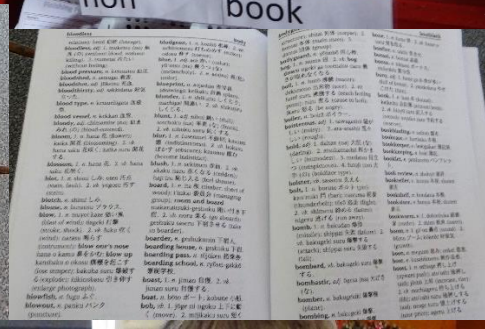
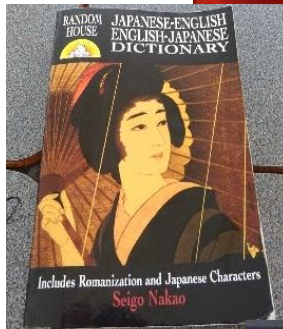
8月10日(木)から8月21日(日)の12日間、山陽小野田市内の中学生8名と引率者2名でオーストラリアのクイーンズランド州にあるモートンベイ市を訪問しました。この海外派遣を通して、参加者皆がそれぞれオーストラリアを堪能し、日本では味わうことのできない経験をすることができました。同市で経験したことをもとに、教員の立場から感じたことや考えたことを報告します。

□オーストラリアの教育について

海外派遣時には、生徒たちはモートンベイ市にあるレッドクリフ・ステート・ハイスクールに通いました。オーストラリアの教育制度は、プライマリースクール(小学校)が6年間、ハイスクール(中高一貫)が6年間です。

オーストラリアでは、小学生から英語以外の言語を学ぶようになっており、多くの学校では日本語を学んでいます。山陽小野田市内の姉妹校の一つのハンピーボング小学校でも、全員が日本語を学んでいました。この学校では1年生の頃から日本語の授業があり、30分の授業が週1回必ずあります。

1年生から4年生までの間は、日本の歌を歌ったり、日本語での簡単な会話を学んだりします。5・6年生の間には、ひらがなやカタカナを学び、日本語の書き方や書き順も学びだしています。また、児童の中には、日本語でどのように言うのか分からない言葉があると、自ら辞書を引いて調べながら、学習・コミュニケーションを楽しんでいました。辞書引きは主に小学校5年生から始める子が多いですが、中には3年生頃から辞書を使う子もいます。必ず辞書を使わなければならないということではありませんが、子どもたちは進んで辞書を使い、会話に必要な単語などを調べて楽しんで



いました。教科書ではなく、タブレットやワークシートを主に活用しながら、日本語の学習を行っていました。



□日本語・日本文化の教育について

小学校も中高もどちらにおいても日本語の授業は、日本語教室(Japanese room)で行われており、教室には、日本語の掲示だけでなく、日本折々の四季についてやマナー、着物、雛人形などが飾られており、言語だけでなく、文化についても学んでいることが教室から見て取れました。

日本の文化にとっても興味を持っており、昔ながらの日本のあそびや歴史・伝統についても関心をもっていました。

また、習字や折り紙を学ぶ機会もあり、生徒は楽しみながら学習をしていました。また、海外派遣生徒と交流をするに当たって、オーストラリアの生徒たちは日本語で簡単な自己紹介を交えながら、コミュニケーションをとっていました。

休み時間には、オーストラリアの生徒に人気のハンドボールをしたり、けん玉をしたりして過ごしていました。



□主体的に学び続ける生徒

高校2年生の日本語の授業では、タブレットを活用して日本語で自己紹介を行ったり、聞き手に自分の自己紹介と関係づけながら質問をしたりしていました。中には、日本に行きたいという生徒も多く、日本の文化や建物、アニメに興味を持っているという生徒もいました。

こうした話を、派遣生徒も聞き、世界から見た日本の姿や国内にいただけでは気づきにくい日本の良さを知ることができました。さらに、オーストラリアの生徒から日本

のことについて質問される場面もありました。例えば、「日本人が好きな和食は何ですか。」と聞かれたり、「日本のお笑いの文化について知りたい。」と言われたりしました。こうした場面で、日本人の私

たちは、咄嗟に答えるのに苦労しました。なぜなら、日本に住んでいて、当たり前となっている文化の中からあることについて、説明するということは、そのことに詳しくなければならぬからです。以上の点に気づかされ、また、日本のアピールポイントについても考えさせられました。

オーストラリアでは、先住民族のアボリジニの方の文化を伝承しようと各方面で学ぶ機会が多くありました。学校では、生徒たちがアボリジニの踊りを練習して披露してくれたり、ブーメランの模様の意味について学んだりと昔からの伝統を守る大切さについても学びました。

さらに、学校近くの資料館に訪問した際には、オーストラリアにどのようにして人が渡り、工業・産業・スポーツ等においてどのような発展を行ってきたか、学ぶことができました。こうした施設は多くの学校の周りに設置されています。資料館だけでなく、図書館も学校の目の前にありました。生徒たちは、放課後、こうした学習施設に自ら出向き、自分が学びたいと思ったことを率先して調べ、探求し、主体的な学びを自然に行うことができます。これらから、主体的な学びを行う子どもたちに育てていくためには、学習の環境づくりが、大切なのだと気づかされました。

オーストラリアでは、宿題を出されることが少ないです。また、14 時には多くの学校が終わります。日本とは、大きく異なった教育場面ではありますが、その分、生徒は自ら課題を見つけ、自分で学びたい教科・将来の夢に近づくために必要な学びを率先して行っています。

そのため、「日本に行きたい」と言っていた生徒たちは、その夢に近づこうと、日本語を一生懸命に勉強しています。

どのような学びも、子どもたちが興味を持った時がスタートで、自主的に学ぶ子どもたちを待つ・見守ること、それらの環境を整えてあげることが必要であると感じました。



□おわりに(派遣生徒の気づき)

派遣生徒は、「最初は会話に困っていたけれど、数日間英語に触れていたおかげで、耳が英語に慣れてきて、大体の会話が聞き取れるようになった。」「オーストラリアの人たちは皆フレンドリーで、声をかけてくれるので、すぐに打ち解けることができました。」「英語でどのように伝えたら良いか分からなくても、他の言い方に変換するなどして、相手に伝える努力をすることができた。」「ジェスチャーの大切さが分かった。」などと、この派遣事業で身をもって体感した成果を口々に話していました。生徒たちは、相手に「思いを伝えたい」「話したい」という思いがコミュニケーションをとる上で一番大切だと実感していました。今回の経験を通して、オーストラリアの良さや日本の良さ、そして、コミュニケーションをとる上で必要な相手意識の大切さを学ぶことができました。この経験をこれからの生活や学びに生かし、グローバルな視野をもった人へと成長してほしいと思います。



山陽小野田市市民活動推進課

たなべ みどり
田邊 碧

中学生海外派遣に引率して

《派遣前の活動》

6月21日(水)に第1回オリエンテーションを実施しました。この日初めて派遣生徒及び引率者10名が顔を合わせ、全員が緊張の面持ちでした。自己紹介、事業概要説明の後、8月2日壮行式・8月11日現地歓迎会・8月18日現地送別会であいさつする生徒を決めました。3名の生徒がすぐに手を挙げてくれました。その様子を見て、この事業に対する真剣さが伝わってきてとても嬉しかったです。また、この日は現地での「さようならパーティー」の出し物の内容についても決めました。1人ずつ事前に考えてきた案を発表した後、生徒達で話し合い、日本昔話の英訳と折り紙を披露することになりました。

7月26日(水)に2回目のオリエンテーションを本山地域交流センターで実施しました。午前中は英語レッスンを行いました。講師はこれまでALTの先生に依頼していましたが、今年度は平成15年度中学生海外派遣事業の派遣生徒で、現在は英会話教室を主宰されているウイドーズ篤実先生にお願いしました。日常生活でよく使うフレーズやオーストラリアに入国する際の空港での入国管理官との会話などを中心としたレッスンで、派遣中にとっても役立つ内容でした。また、ウイドーズ先生自身の中学生海外派遣事業の体験談も大いに語っていただき、生徒達は滞在中のイメージが沸いたようでした。昼食を挟んで、午後からはさようならパーティーの出し物の準備に取りかかりました。日本昔話の英訳から始めました。題材は「あさのねたろう」と「ももたろう」で、「あさのねたろう」については山陽小野田語り部の会様からご提供いただいた紙芝居を使用させていただき、準備を進めました。途中、きららガラス未来館に行き、ホストファミリーに記念品として渡すジェルキャンドルを製作しました。1時間ほどで完成しました。その後本山地域交流センターに戻り、出し物の準備の続きをし、19時に解散しました。昼食を終えた頃くらいまで派遣生徒同士でなかなか打ち解け合うことができず心配になりましたが、解散の頃にはすっかり仲良くなって安心しました。この日を境に、グループLINEで情報共有を行うなど派遣生徒同士の距離がぐっと近くなりました。



8月2日(水)は壮行式と第3回のオリエンテーションを実施しました。壮行式は、主催者である藤田市長のあいさつに始まり、共催者の山陽小野田市国際交流協会永山会長、市教育委員会長友教育長のあいさつと続き、派遣生徒代表あいさつは埴生中学校3年の前田彩花さんが力強く派遣



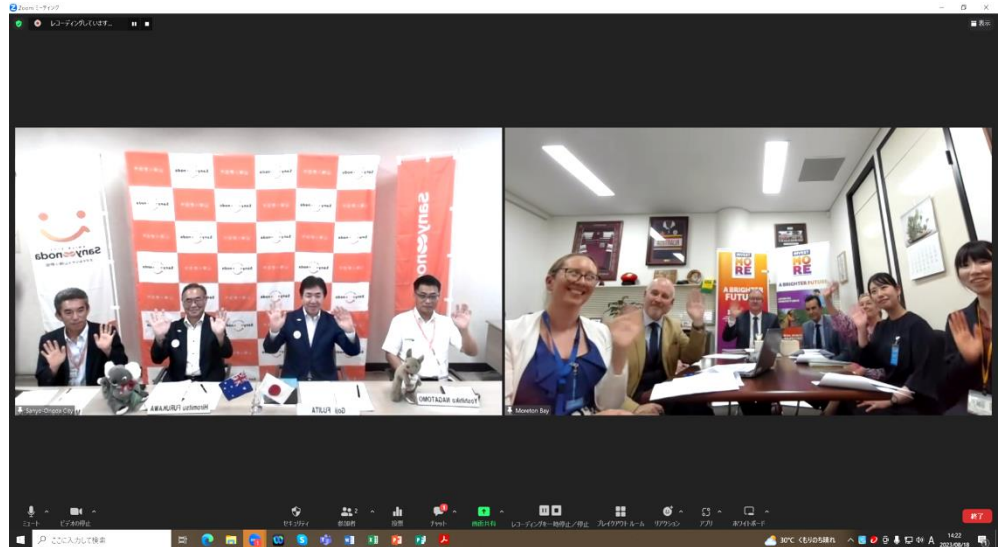
に向けての決意を述べました。激励のことばを山陽小野田市議会高松議長、高千帆中学校山本校長からいただきました。式の最後の記念品贈呈で、藤田市長から派遣生徒を代表して竜王中学校の青木歩未さんに山陽小野田市観光マップ(英語版)、ホームステイ先への記念品(ジェルキャンドル)、第9回現代ガラス展図録が手渡されました。

壮行会終了後の第3回オリエンテーションでさようならパーティーの最終準備をしました。同席していた保護者の前で、ねたろうともたろうの読み聞かせのリハーサルを行いました。

《派遣中の活動》

派遣中は生徒達がホームシックに罹ることが引率者として一番心配していました。せつかくのこの機会を生徒達が存分に楽しめない状況であってはならないと考えていたからです。しかし、その心配は全く無用でした。生徒達は毎朝ホームステイ先の出来事を嬉しそうに報告してくれました。バディと派遣生徒の仲睦まじい様子が見受けられ、こちらまで嬉しい気持ちになりました。

8月18日金曜日に初めて「モートンベイ市・山陽小野田市市長オンライン会談」を実施しました。両市長が対面するのは、昨年8月に開催した「モートンベイ市・山陽小野田市姉妹都市提携30周年記念式典(オンライン)」以来1年ぶりです。私はモートンベ



イ市側から会談に参加しました。藤田市長は冒頭のあいさつで、6月30日からの大雨に対するモートンベイ市からお見舞いについて感謝の意を述べました。次にこの一年の出来事をお互いに紹介しました。さらに、滞在中の派遣生徒の様子の報告もありました。その後、交換留学やガラス事業について出席者が意見を交わしました。終了後は、モートンベイ市の出席者の皆さんと記念写真を撮りました。ピーター・フラナリー市長と握手しました。その手はとても大きく温かったです。ほんの少し両市の架け橋となれた気がしました。

そして、この日は派遣生徒がレッドクリフ・ステート・ハイスクールで過ごす最後の日でした。さようならパーティーでは堂々と日本昔話を英語で披露しました。折り紙は事前に途中まで折ってきたものを

生徒達が持参し、現地の生徒と協力して完成させました。生徒達がたくさん折ってきていたので、ハイスクールの先生が授業で使いたいと申し出られて、たくさん提供しよとお土産になりました。生徒達が頑張っ
て折ってきた甲斐がありました。

モートンベイ市は海があり、緑豊かで空港が市からそう遠くない場所に位置し、地理的な観点では似ているという印象がありました。この事業をコーディネートしてくださっているレッドクリフステートハイスクールのジェシカ先生には市内のさまざまな場所に連れて行っていただきました。ここで見た夕陽は、焼野海岸の夕陽を彷彿とさせる美しさがあり、一瞬日本にいるかのような心持ちがしました。海の向こうに見える建物群が一見工場群に見えましたが、それはブリスベンの街並みでした。ジェシカ先生はブリスベンにも連れて行ってくださいました。訪れたのは8月19日土曜日で、この日はちょうどサッカー女子ワールドカップのスウェーデン対オーストラリアの3位決定戦の日でした。ブリスベンはオーストラリアカラーの緑と黄色に溢れ、あちこちでパブリックビューイングが行われていました。4年に一度の祭典の開催地で、開催国の試合の特別な雰囲気を感じ、サッカーに詳しくない私でも興奮しました。オーストラリアにとって歴史的な一戦の日
にブリスベン観覧車から見た夜の景色は本当に煌びやかで息をのみました。



8月20日日曜日はオーストラリアでお世話になった皆さんとお別れの日でした。涙、涙のお別れでした。派遣生徒、ホストファミリー、その場にいた全員の涙が止まりませんでした。私はジェシカ先生と抱き合ってお別れしました。私達が乗り込んだバスが出発すると、バディ達が走って後を追いかけてきました。その様子にバスの車内でも涙で溢れていました。これほどまでに人と人が心を通わす場面を目の当たりしたことはありません。感動的な場面に立ち会い、本当に幸せでした。

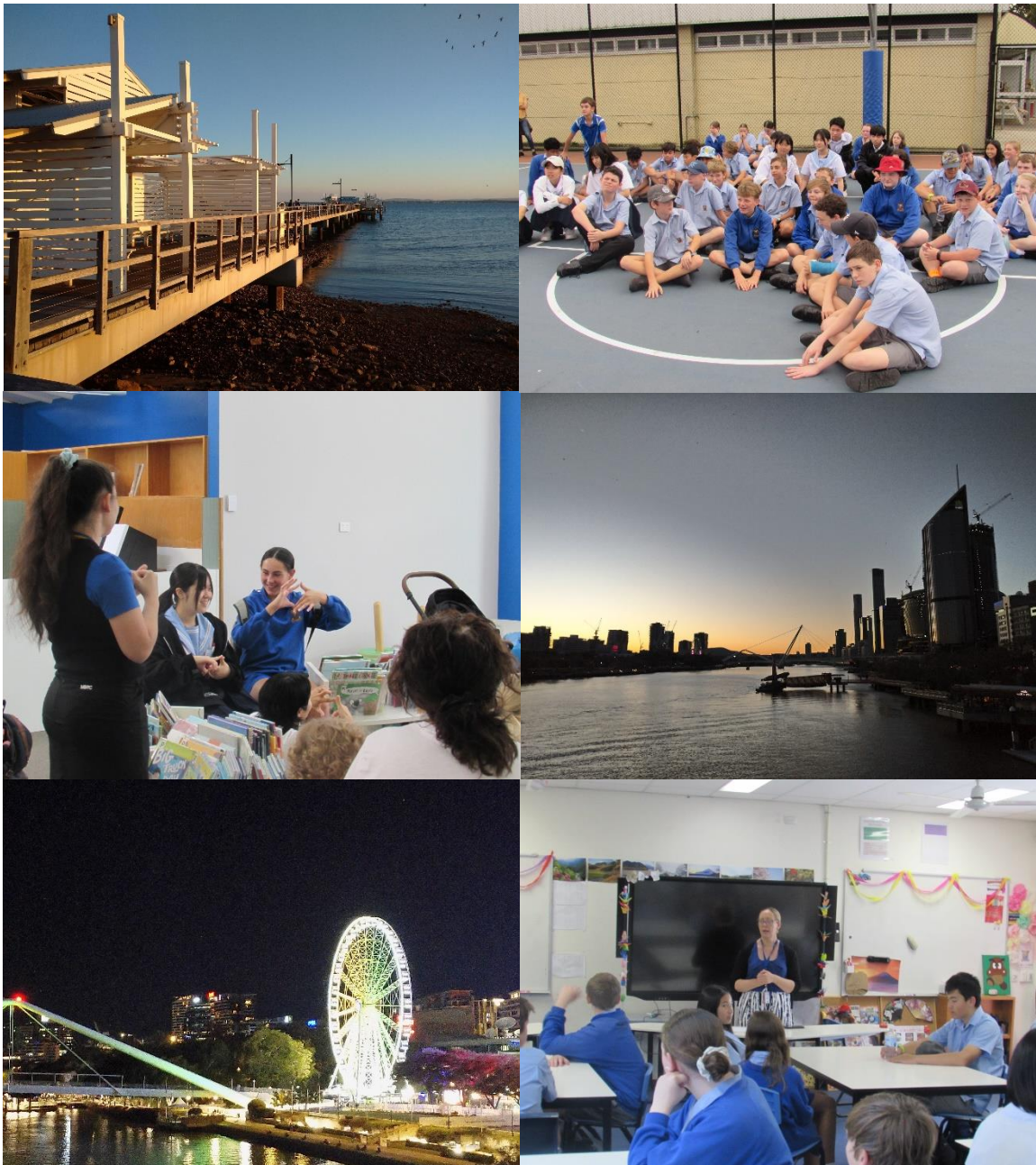


《派遣を終えて》

帰国後、派遣生徒の保護者の方から「子どもがオーストラリア戻りたいと言って逆にホームシックになっている」「帰国してから毎日のようにバディと連絡を取り合っているようだ」と嬉しい声が聞かれました。派遣生徒の皆さんにはこの貴重な経験・貴重な出会いを一過性のものではなく、ずっと紡いでいってほしいと願っています。渡豪する少し前に、26年前の派遣生徒の方から当時のバディともう一度連絡が取りたいので連絡先が知りたいと依頼がありました。バディが日本に来て、その派遣生徒の方の自宅でホームステイしたこともあったそうですが、当時はSNSも普及しておらず、その後自然と連絡が途絶えてしまったようです。しかし、ジェシカ先生のご協力
でバディの連絡先がわかり、交流が再開されました。とても素敵な出来事に微力ながらご協力できたこと嬉しく思います。この出来事を

通じて感じたのは、この事業は何十年経っても色褪せない大切な思い出になるということです。私が本事業の担当になって、過去の派遣生徒、その保護者の方からいろいろな話をうかがう機会がありました。どの方からの言葉も本事業がその方の今後の人生に少なからず影響を与えているのだと思いました。この事業の継続的な実施に向け、担当として業務に当たっていきたくて考えています。

最後に、この事業を支えてくださった全ての皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。この事業で受けた皆様のご厚意を決して忘れることなくこれからもずっと心に留めておきます。本当にありがとうございました。



編集・発行

山陽小野田市協創部市民活動推進課

〒756-8601

山口県山陽小野田市日の出一丁目1番1号

TEL 0836-82-1134

FAX 0836-84-6937